



中国の文化IX 第9回

隋唐時代

敦煌文書の世界

仏教の隆盛と敦煌文書の世界

南北朝時代、中原を支配した遊牧民族は、漢民族の高度な文明に対抗し、支配下の諸民族との共生を図るため、西域から東アジアへと新たな文明を伝えた。仏教である。

サンスクリット語の経典が東アジアの共通語(Lingua franca)である漢語に翻訳された結果、南北朝時代から隋、唐時代にかけて、東アジアに仏教という世界宗教が浸透していく。

仏教の伝来は、中国に「変文」という新たな庶民文芸を誕生させた。一九世紀の末、この変文を含む数万点の古文書が、西域の仏教石窟から発見された。「敦煌文書」である。

講義内容

第一節 隋唐時代

～異民族集団が開いた世界帝国

第二節 敦煌文書の発見

～よみがえる唐代の俗文学世界

第三節 王昭君変文はなぜ生まれたのか？

～民族融和のために生きた女性たち

第一節

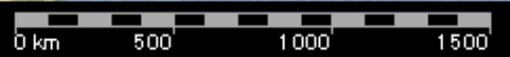
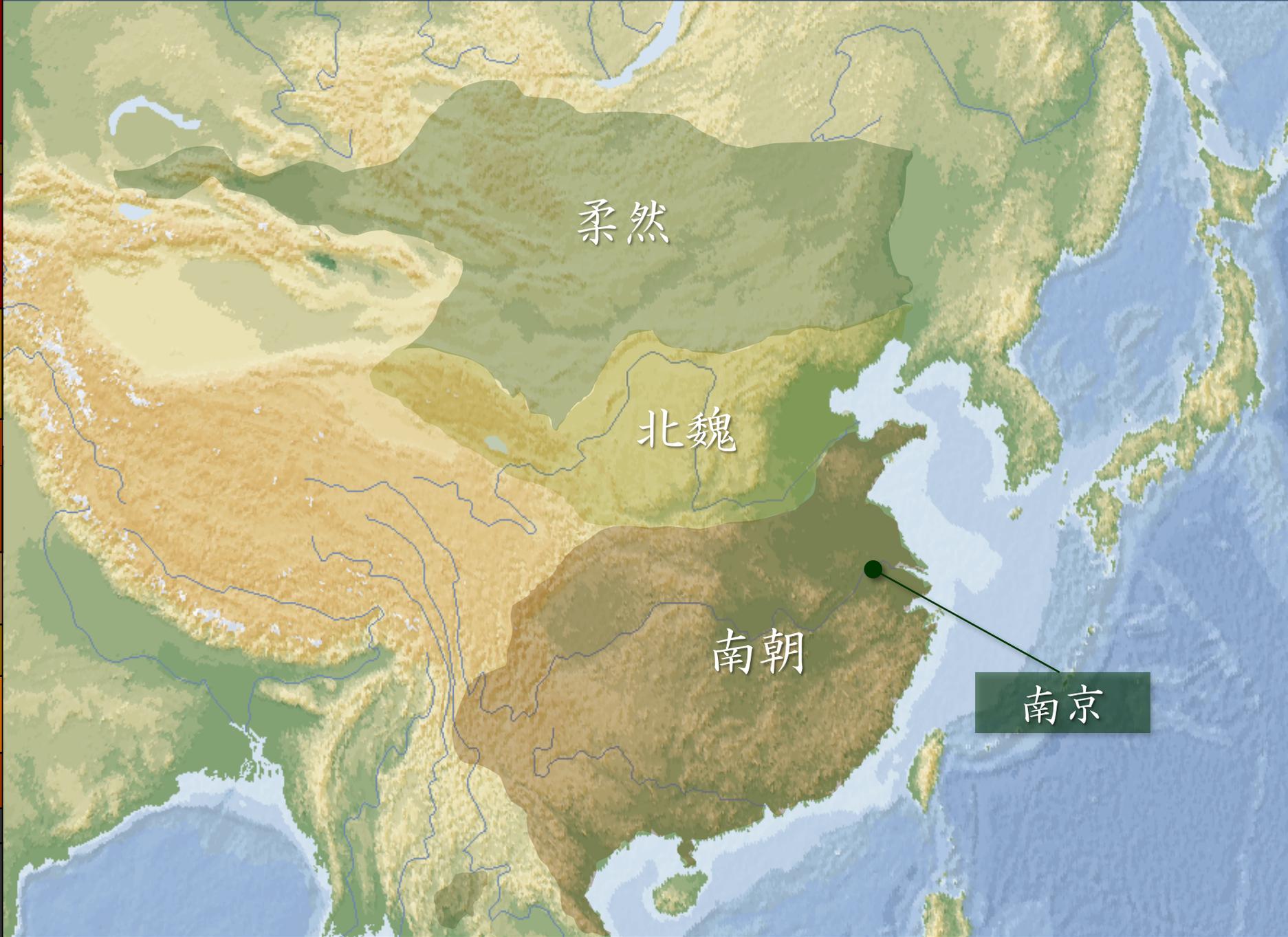
隋唐時代

異民族集団が築いた世界帝国

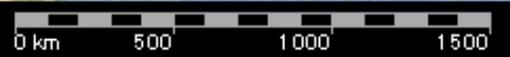
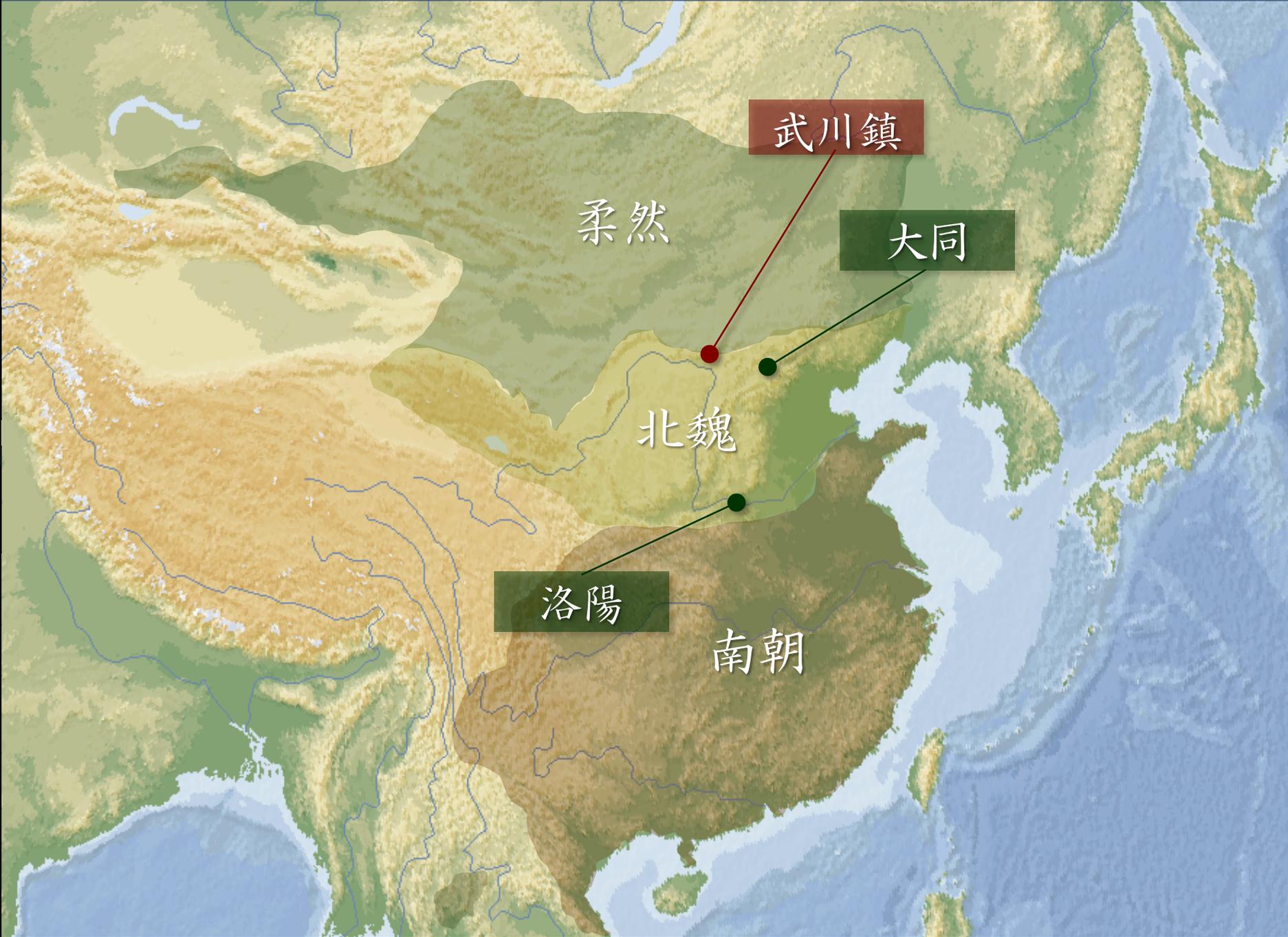


隋唐を築いた草原の軍団(NHKスペシャル「故宮」より)

前漢 202BC~8BC		
新 8BC~25AD		
後漢 25~220		
魏 220~265	蜀 221~ 263	吳 229~280
西晉 265~316		
五胡十六国 316~439		東晉 318~420
北魏 439~534		宋 420~479
		齊 479~502
西魏 北周	東魏 北齊	梁 502~557
		陳 557~589
隋 589~618		
唐 618~907		



前漢 202BC~8BC		
新 8BC~25AD		
後漢 25~220		
魏 220~265	蜀 221~263	吳 229~280
西晉 265~316		
五胡十六国 316~439		東晉 318~420
北魏 439~534		宋 420~479
		齊 479~502
西魏 北周	東魏 北齊	梁 502~557
		陳 557~589
隋 589~618		
唐 618~907		



隋唐王朝のルーツ

「東アジアの唐帝国は、カール大帝を出したフランク王国*に比較さるべきものである。」

宮崎市定『大唐帝国』

*西ゲルマン系のフランク人が建てた王国（四八六〜九八七）。民族大移動後の混乱を収拾して、キリスト教を中心とするヨーロッパの政治的・文化的統一を実現し、ドイツ、フランス、イタリアなどの諸国家の源流となった。



宮崎市定 (1901~1995)

隋唐王朝のルーツ

「漢王朝は中国人によって建設された大国家であるのに反し、唐帝国は北方から中国に侵入した異民族集団の発達線上にその起源が求められる。この点はまさしくフランク王国が、ゲルマン民族大移動の結果として生じた産物であると軌を一にする」

宮崎市定『大唐帝国』



宮崎市定 (1901~1995)

ローマ共和制 前509～前31

ローマ帝国
前27～395

西ローマ帝国
395～476

ゲルマン民族の大移動
(4世紀末～6世紀末)

東ローマ帝国
395～1453

フランク王国
395～843



前漢
202BC～8BC

新 8BC～25AD

後漢
25～220

魏
220～265

蜀 221～
263

呉
229～280

西晋 265～316

五胡十六国
316～439

東晋
318～420

五胡の侵入
北魏 (4世紀初～6世紀末)
439～534

宋 420～479

西魏
北周

東魏
北齊

梁 502～557

陳 557～589

隋 589～618

唐 618～907



第二節

敦煌文書の発見

よみがえる唐代の俗文学世界

変文

仏教が黄金時代を迎えた隋唐時代、中国の寺院では、仏の教えを人々にわかりやすく伝えるために、「変」と呼ばれる絵巻を示しながら、歌と語りを交えて語る（転）絵解き講釈が人気を集めていた。

仏教とともに西域から伝わったと考えられるこの変文は、やがて民間に広く普及し、絵解きをしながら物語を語る民間芸人が登場した。

インドの絵解き芸人ボーパ

インド北西部のラジャスタン地方には、いまもphadと呼ばれる絵巻を掲げながら、歌と語りによって、この地に伝わる英雄伝説を語る絵解き芸人ボーパが活動を続けている。

ラジャスタン地方



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

なぞの芸能「変文」

吉師老「看蜀女転昭君変」

唐代の絵解き「変文」

妖姬未著石榴裙
自道家連錦水濱
檀口解知千載事
清詞堪歎九秋文
翠眉顰處楚辺月
画卷開時塞外雲
説尽綺羅當日恨
昭君伝意向文君

(唐)吉師老「看蜀女転昭君変」(全唐詩卷七七四)

唐代の絵解き 「変文」

妖艶な娘は

石榴のスカートもはかず

四川の錦水のほとりから

来たという

真っ赤な唇は

遙か昔の歴史を物語り

その歌詞は

九秋の文をも歎かせるほど

美しい眉をひそめて歌うは

楚のあたりの月

画卷を開けば

そこははるか辺境の雲

宮廷での思い出を語りながら

王昭君は卓文君に思いを伝える

(唐)吉師老「看蜀女転昭君変」(全唐詩卷七七四)

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

なぞの芸能「変文」



唐代の変文は発見されたか？

吉師老「看蜀女転昭君変」

敦煌文書の発見(1900年)

敦煌文書の発見

一九〇〇年、敦煌石窟(莫高窟)に暮らす王円籙という道士が、石窟(第十六窟)の甬道に、小さな石室(第十七窟)があるのを発見した。

十一世紀ごろ封印されたと考えられるこの石室には、四く十一世紀までの文書数万点が隠されていた。

その中には吉師老の詩に歌われた王昭君の絵解き物語・王昭君変文も含まれていた。

バーミヤーン石窟

敦煌石窟の造営開始(366年頃)

雲崗石窟の造営開始(460年頃)



北朝
(北魏)

南朝
(齊)

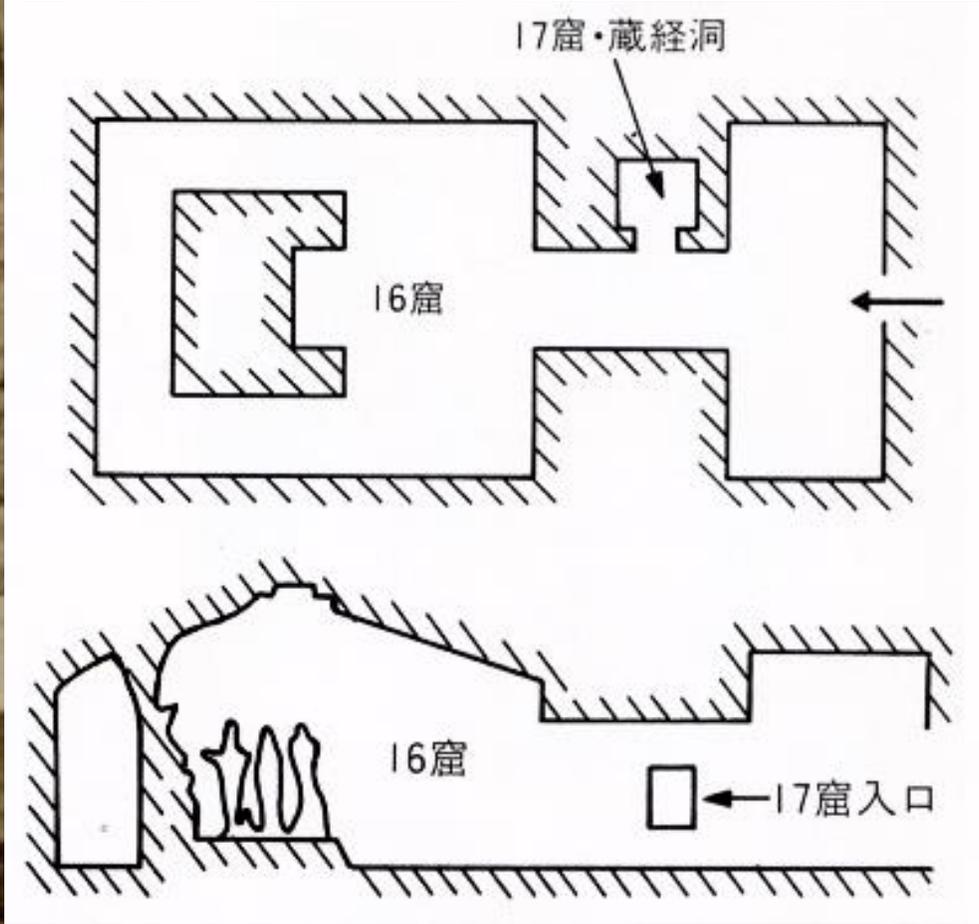
アジャンタ石窟

竜門石窟の造営開始(493年頃)

敦煌石窟で大量の古文書が発見される(1900年)

清朝

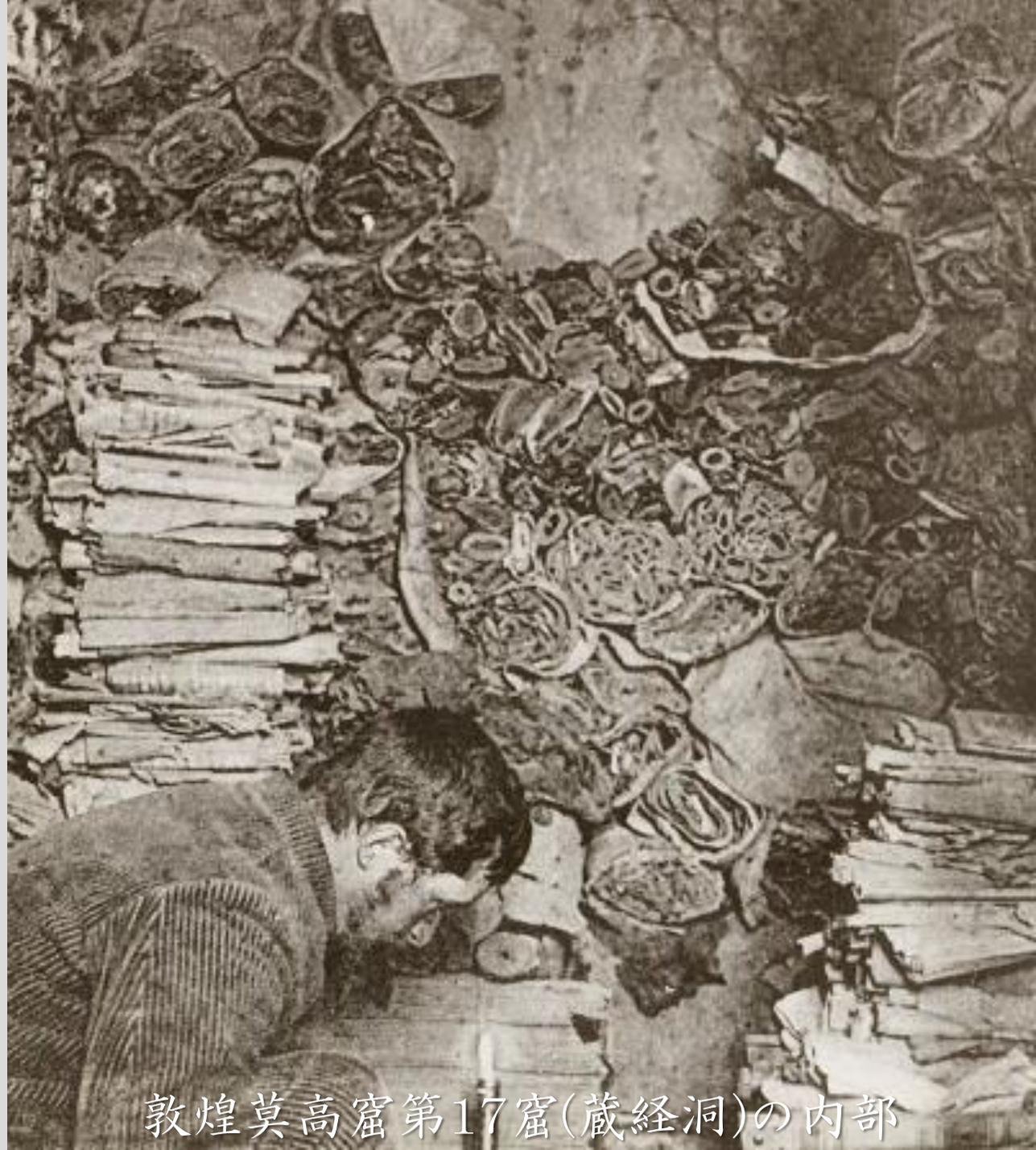




敦煌莫高窟第16窟と第17窟藏經洞



敦煌莫高窟第16窟と第17窟藏経洞



敦煌莫高窟第17窟(藏經洞)の内部

飲食盈懷按 蒲杞滿頰罇 九米不向口 交命若何存

奉管長休息 龍城永絕聞 畫眉無若擇 淚眼有新恩

願為寶馬連長帶 莫學孤蓬剪斷根 公主時亡傳重祀

誰能在後喪孤魂

從昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山
 丹求日月百計尋得千般末術報令春盡命也何存可

不離重副部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調
 大明妃實若為陳說

單于昨夜子時亡 突厥今歸於後世 二邊走馬將相
 萬里非書奏漢王 單于是日親獻人 莫捨須臾守府心

文見された王昭君變文

敦煌の莫高窟から発見された王昭君変文はいつごろ作られたものか？



飲食盈懷按 蒲杞滿頭罇 九米不向口 交命若何存
 奉管長休息 龍城永絕聞 畫眉無若擇 淚眼有新痕
 願為寶馬連長帶 莫學孤蓬剪斷根 公主時亡傳重記
 誰能在後喪孤魂
 從昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山
 舟來日月百計尋 千般末術報令春盡命也何存可
 不脫却天子之厭運着庶人之衣披後暗言魁渠並至號
 不離重剛部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調
 大明妃實若為陳說
 單于昨夜子時亡 突厥今歸後復亡 二邊走馬時相
 万里非書奏漢王 單于是日親臨入 莫捨須臾守府心

発見された王昭君変文

王昭君変文の成立年代

(王昭君の)墳墓は高さ数尺

名を青塚と申します

(中略)

人がどこで生まれ、死ぬかは

すべて前世の定め

哀れ明妃(王昭君)の命は

風に吹かれた灯のように消え去り

八百余年

いまもその墓は残っておりす

王昭君変文 (P二五五三)

部落皆未傾國成儀乃葬昭軍虜若為陳說
 詩書既許禮釋情 今古相傳莫不情 漢家雖道主華重
 善言不猶死葬輕 單于是日親臨送 部落皆未引仗行
 晴走能罷千里馬 草未覓取送五軍兵 牛羊隊生埋塚
 仕女茶一伴入坑 地上築境獨未了 東下惟聞叫喚聲
 蕃家法用將者重 漢國如何輒肯行 若道可汗傾國罪
 焉知死者絕好生 黃金白玉運車載 寶物明珠盡奉傾
 昔日有奉至合國葬 投料昭軍亦未平 墳高數尺呈青塚
 運道軍人為喜者 只今葬在黃河只 西南望見受信城
 款知生有地死有室可惜明妃後風燭八百餘年墳今上

王昭君変文の成立年代の推定

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 9 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中华民国 1912-1949

中华人民共和国 1949-

内部徴証

匈奴が来朝し、王昭君を閼氏に迎える(BC33年)

“八百余年”

王昭君変文が作られる(西暦800年頃)

吉師老「看蜀女転昭君变」

王昭君変文の形式

王昭君変文は、説(散文)と唱(韻文)を交互に織り交ぜて上演されていた。

唱の部分の冒頭には「〜処、若為陳説(〜)の場面、いかなる内容かといひますと」とあり、絵巻物を見せながら歌っていたことがわかる。また、「上巻立鋪畢、此入下巻(上巻はここで終わり、これより下巻に入る)」というト書きがあり、絵巻物が上下二巻から構成されていたこともわかっている。

飲食盈懷按 蕭袍滿頭罽 九米不向口 交命若何存
 奉管長休息 龍城水絕咽 畫眉無若擇 淚眼有新恨
 願為寶馬連長帶 莫令孤蓬剪斷根 公主時亡傳事記
 誰能在後喪孤魂

唱

從昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山川
 再求日月百計尋訪千般末術報合春盡命也何存可惜
 不離重刑部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調入
 大明妃宸若為陳説

説

單于昨夜子時亡 突厥人朝使使臣 二邊走馬將胡命
 万里非書奏漢王 單于親臨人 莫捨漢東守府心

唱

王昭君變文(P二五五三)の梗概

王昭君變文の前半部分は残欠が多いため、王昭君がなぜ匈奴の地に行くことになったのかは不明である。

しかし、後半に見える「良由画匠、捉妾陵持、遂使望断黄沙、悲連紫塞、長辞赤梟、永別神州」(画匠にいじわるをされたため、望みは黄沙に断たれ：：)という一句から、『西京雜記』や『世説新語』が伝える伝承が、その原因として語られていたことが推察される。

飲食盈懷按

蕭梟滿頭罍

九米不向口

交命若何存

奉管長休息

龍城永絕聞

畫眉無若擇

淚眼有新恨

願為寶馬連長帶

莫學孤蓬剪斷根

公主時亡傳事記

誰能在後喪孤魂

役昨夜已來明妃漸因應為異物多不成人單于重祭山川
再求日月百計尋訪千般末術縱令春盡命也何存可惜

一風燭故知主有地死有室恰至三更火命方盡

不離官刑部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調八

矣明妃實若為陳說

聖軍昨夜子時亡

突厥今訶於使亡

一邊走馬將胡令

万里非書奏漢王

單于是日親臨八

莫捨須臾守府中

なぜ王昭君は匈奴に嫁いだのか

漢の元帝は、後宮に宮女が多く、なかなか会えないため、画工に肖像画を描かせ、その絵によって宮女を召していた。

(漢)劉歆撰 (晋)葛洪集西京雜記第二

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美人爲闕氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

なぜ王昭君は匈奴に嫁いだのか

宮女たちはみな画工に賄賂を贈り、多い者は十万、少い者でも五万を下ることはなかったが、ただ王嬙（昭君）だけは賄賂を贈ろうとせず、そのため帝の寵愛を受けることができなかった。

（漢）劉歆撰（晋）葛洪集西京雜記第二

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美人爲闕氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

なぜ王昭君は匈奴に嫁いだのか

匈奴が朝見し、漢の美人を閼氏(匈奴の妻妾)に迎えることを求めたので、帝は絵によって昭君を行かせることにした。

(漢)劉歆撰(晋)葛洪集西京雜記第二

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美入爲閼氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

なぜ王昭君は匈奴に嫁いだのか

出発の際に謁見してみると、その容貌は後宮で一番。応対も善く、立ち居振舞いもあでやかであった。帝は後悔したが、名簿がすでにできあがっていたため、外国との信義を重んじ、人を変えることはしなかった。

(漢)劉歆撰 (晋)葛洪集西京雜記第

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美入爲闕氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

なぜ王昭君は匈奴に嫁いだのか

その後、事の真相が明らかになると、画工たちをすべてさらし首にした。彼らの家財を没收すると、みな巨萬の富を蓄えていた。

(漢)劉歆撰 (晋)葛洪集西京雜記第二

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美入爲闕氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

王昭君變文(P二五五三)の梗概

王昭君は、単于とともに匈奴に行くが、異国の地になじむことができず、鬱々とした日々を過ごす。

単于は王昭君を喜ばせようと「煙脂」の名（実は匈奴の皇后の意）を与えて皇后に立てたり、盛大な巻き狩りを行ったりする。

しかし王昭君は巻き狩りを見物するために登った小高い嶺で、遙か遠くにある漢の地を思い出し、とうとう病にかかってしまう。

飲食盈懷按

蒲袍滿頭罽

九米不向口

交命若何存

奉管長休息

龍城水絕聞

畫眉無若擇

淚眼有新恨

願為寶馬連長帶

莫學孤蓬剪斷根

公主時亡傳事記

誰能在後喪孤魂

昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山川
再求日月百計尋訪千般末術報合春盡命也何存可惜

不風燭故知主有地死有妻恰至三更大命方盡

不離重剛部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調入

大明妃實若為陳說

單于昨夜子時亡

突厥今朝使使亡

二邊走馬將胡命

万里非書奏漢王

單于是日親臨亡

莫捨漢東守府亡

王昭君變文(P二五五三)の梗概

单于是「あなたが死んでしまつたら、私も死にます」と王昭君の病を治そうとするが、懸命の治療も虚しく王昭君はついに帰らぬ人となる。

王昭君は匈奴と漢の国境近くに埋葬され、その墓は「青塚」と呼ばれた。王昭君の死後、漢の哀帝は使者を送り、王昭君の墓前で追悼文を読むところまで物語は終わる。

飲食盈懷按

蒲飽滿頭罇

九米不向口

交命若何存

奉管長休息

龍城水絕聞

畫眉無若擇

淚眼有新恨

願為寶馬連長帶

莫學孤蓬剪斷根

公主時亡傳奇記

誰能在後喪孤魂

昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山川
再求日月百計尋訪千般末術報合春盡命也何存可惜

不風燭故知主有地死有妻恰至三更大命方盡

不離重剛部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調入

大明妃家若為陳說

單于昨夜子時亡

突厥今朝使使亡

二邊走馬將胡命

万里非書奏漢王

單于是日親臨亡

莫捨漢東守府亡

青塚 (内モンゴル自治区フフホト市)





青塚（内モンゴル自治区フフホト市）

王昭君變文（敦煌文書P二五五
三）はいまどこに？



部落皆未傾國成儀乃葬昭君膚若為陳說
詩書既許禮釋情 今古相傳莫不情 漢家雖道主華重
善言不猶死葬輕 單于是日親臨送 部落皆未引仗行
晴走能羅千里馬 草未覽取送五軍兵 牛羊隊生埋塋
仕女慕一從身入坑 地上築築境獨夫丁 泉下推闕叫哭聲
蕃家法用將為重 漢國如何輒肯行 若道可汗傾國罪
焉知死者絕好生 黃金白玉運軍載 寶物明珠盡帝傾
昔日有奉至合國葬 投料昭君亦未平 墳高數尺早青塚
運道軍人為喜名 只今葬在黃河只 西南望見受信城
款知生有地死有室可惜明妃後風燭八百餘年墳今上

敦煌文書の離散

1600BC	殷 1600BC頃-1046BC		
1500BC			
1400BC			
1300BC			
1200BC			
1100BC			
1000BC			
900BC	周 1046BC-771BC		
800BC			
700BC			
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC		
500BC			
400BC			
300BC			
200BC	秦 221BC-207BC		
100BC			
0	漢 206BC-220AD		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 9 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800			
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700	清 1616-1912		
1800			
1900	中華民国 1912-1949		
2000	中華人民共和国 1949-		

敦煌文書の発見(1900年)

義和団事件(1900年)



義和団事件で北京の紫禁城を占領した八カ国連合軍（1900年）

海外に離散した敦煌文書

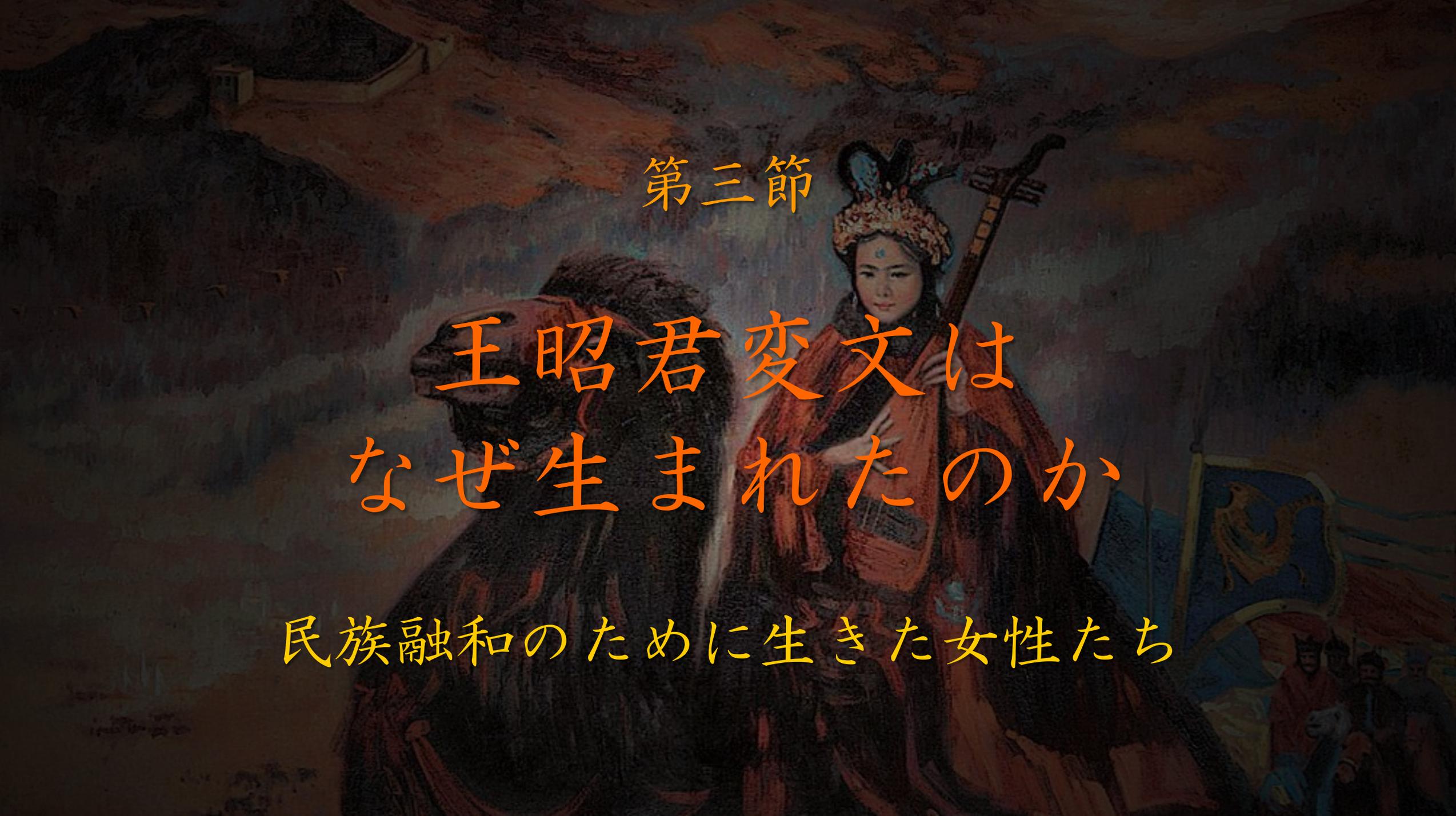
敦煌石窟から発見された文書は、一九〇七年にイギリスのスタイン (Sir Mark Aurel Stein) 、一九〇八年にフランスのペリオ (Paul Pelliot) 、一九一一年に日本の大谷探險隊、一九一四年にロシアのオルデンブルグ (Sergey Fyodorovich Oldenburg) によって国外に持ち出され、現在は大英博物館、パリ国立図書館などに所蔵されている。



スタイン(M.A.Stein 1862-1943)



ペリオ(P.Pelliot 1878-1945)



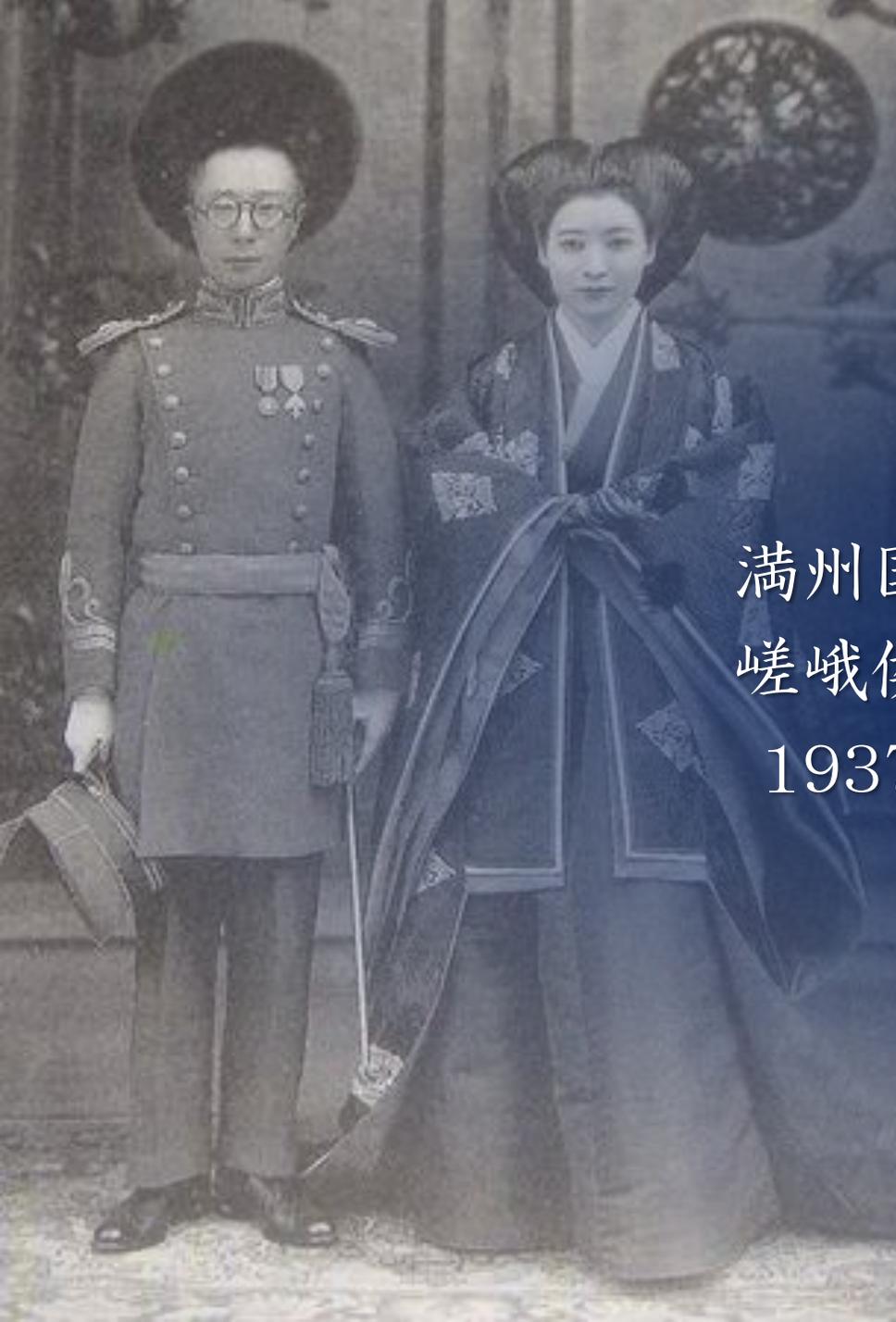
第三節

王昭君変文は
なぜ生まれたのか

民族融和のために生きた女性たち

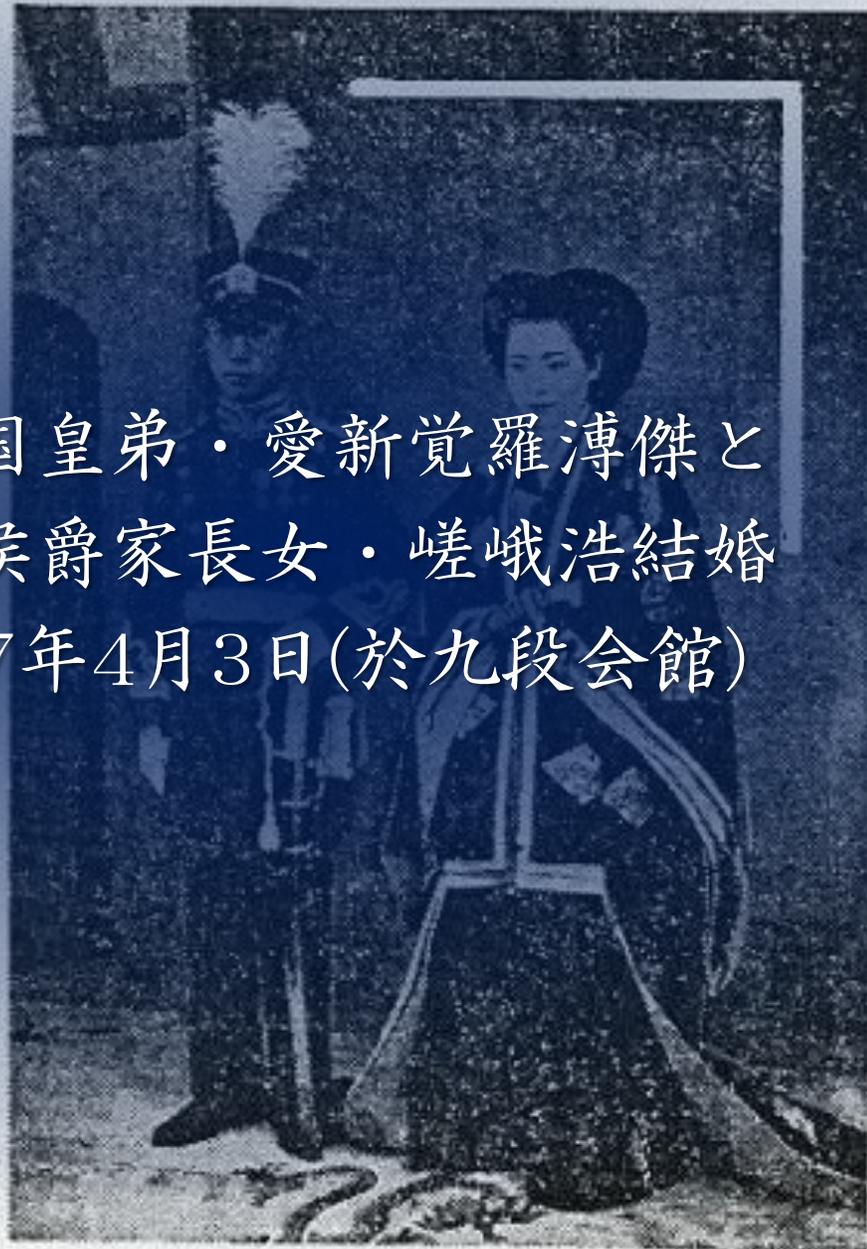
王昭君の話のような政略結婚は、
日本でも行われたが、いつごろまで
行われていたのか？





満州国皇弟・愛新覚羅溥傑と
嵯峨侯爵家長女・嵯峨浩結婚
1937年4月3日(於九段会館)

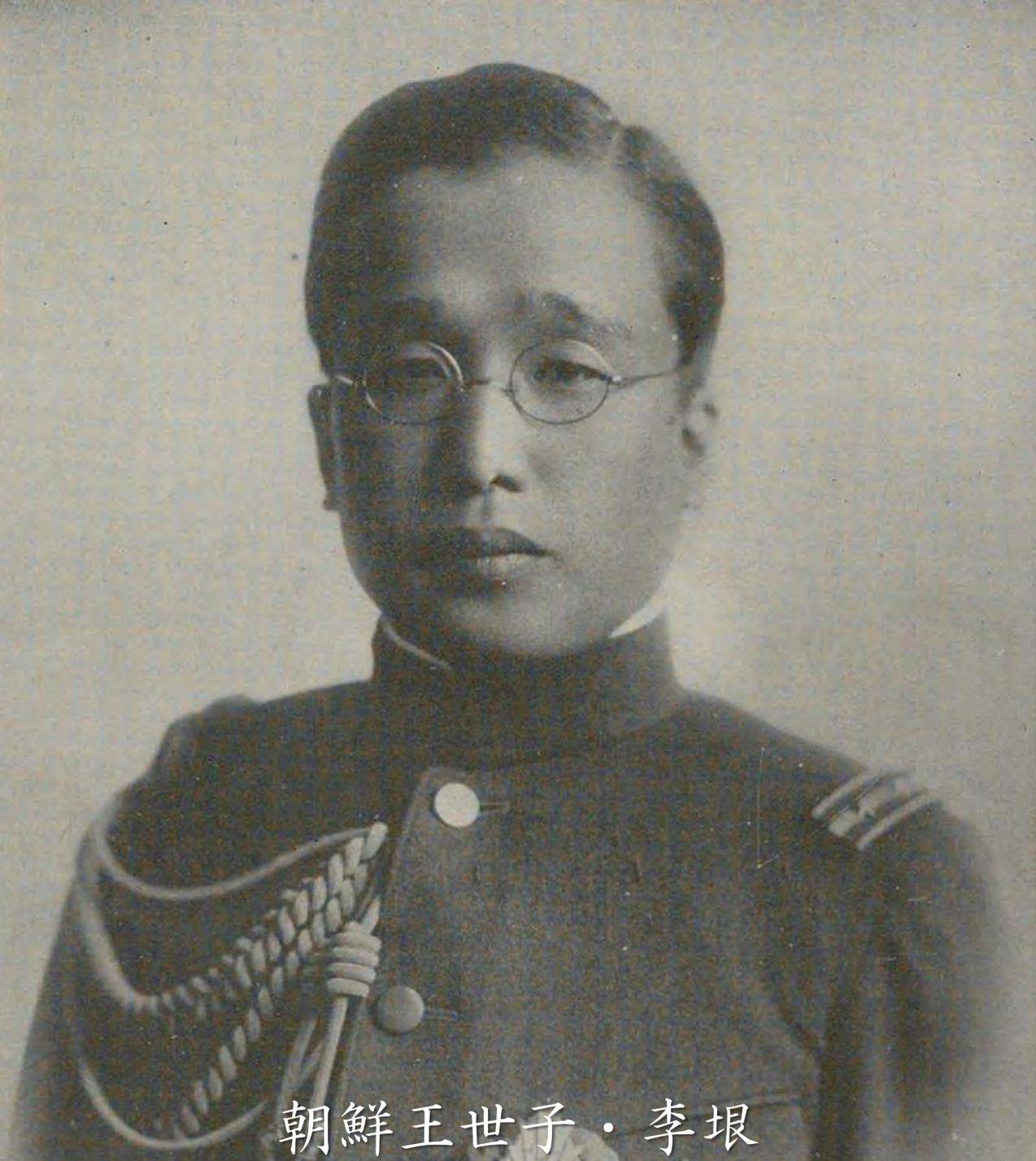
日満親善の春



昨日溥傑氏と御結婚

皇帝御喜びの敕諭 桂袴美々し浩姫

新洲宮前陛下の御弟 溥傑氏(こと我が名門松坂公卿侯爵愛新覚羅)の結婚式は、四月三日の佳き日午後三時から九段軍人会館で本庄大尉夫妻の援助で厳粛に行はれ、特に新洲宮前陛下の御喜びは非常なもので披露を敢はつた、終つて同六時から引續き同館で催された饗宴には竹田宮、皇弟中殿下の御臨あり、日皇御臨水邊の様、誠に親善の春を感ぐ御慶であつた(写真には溥傑氏と浩姫)



朝鮮王世子・李垠



梨本宮家王女・方子

6:00





王昭君変文はなぜ生まれたのか？

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC		
周 1046BC-771BC		
春秋戦国時代 770BC-221BC		
秦 221BC-207BC		
漢 206BC-220AD		
魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
晋 265-316		
五胡十六国時代		東晋 317-420
北朝 439-589	南朝 420-589	
隋 581-619		
唐 618-907		
五代十国 907-960		
遼	北宋 960-1127	
金 1115-1234	南宋 1127-1279	
元 1271-1368		
明 1368-1644		
清 1616-1912		
中華民国 1912-1949		
中華人民共和国 1949-		

王昭君変文の時代背景

“和蕃降嫁”の時代

- 北周の千金公主、突厥可汗に嫁ぐ(580年)
- 唐の文成公主、チベット王に嫁ぐ(640年)
- 唐の金城公主、チベット王に嫁ぐ(710年)
- 王昭君変文が作られる(800年頃)

A topographical map of East Asia, highlighting the Tang Dynasty (唐) in dark brown and the Tubo Kingdom (吐蕃) in a lighter brown. A green line with arrows at both ends connects a point in the Tang territory to the Tubo territory. The map shows the Yellow Sea, Bohai Sea, and surrounding landmasses.

吐蕃

チベット民族が建てた
最初の統一王国

唐

唐の文成公主、チベット王に嫁ぐ(640年)

唐の金城公主、チベット王に嫁ぐ(710年)

王昭君変文の時代背景

“和蕃降嫁”の時代

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

北周の千金公主、突厥可汗に嫁ぐ(580年)

唐の文成公主、チベット王に嫁ぐ(640年)

唐の金城公主、チベット王に嫁ぐ(710年)

王昭君変文が作られる(800年頃)

民族間の融和に身を捧げた女性

妾聞隣国者大而小而^①、強自強、弱自弱。何用逞雷電之意氣、争烽火之声、独楽一身、苦他万姓。

私は隣国には大国もあれば小国もあり、強きものは自ずと強く、弱きものは自ずと弱いと聞いております。なぜ、雷電の意気を逞しくし、烽火の声を争い、ただ一身を楽しませるために、他の万姓を苦しめる必要がありましたでしょうか。

王昭君変文(P二五五三)

【注釈】

①王重民等編『敦煌変文集』は、この句を「隣国者大強而小弱」の誤りとする。



王昭君説話の変遷

変文から元雑劇、白話小説へ

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中华民国 1912-1949

中华人民共和国 1949-

匈奴が来朝し、王昭君を閼氏に迎える(BC33年)

王昭君変文が作られる(800年頃)

馬致远、元雑劇漢宮秋を著す(13-14世紀)

雪樵主人、双鳳奇縁を刊行(1809年)

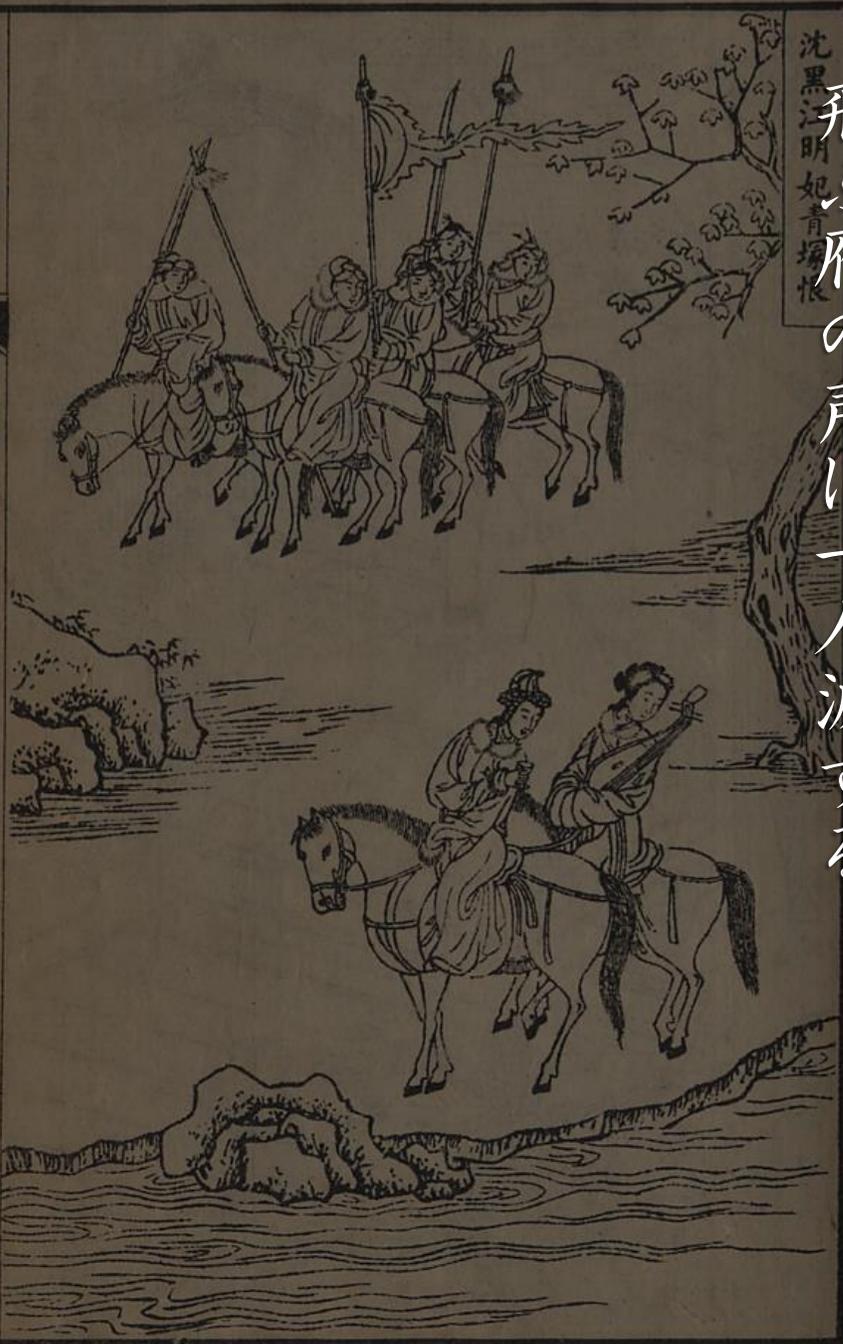
元雜劇漢宮秋

元代の雜劇四大家の一人である馬致遠が書いた雜劇。

漢の元帝の時代、後宮に王昭君という美しい女性がいた。王昭君は絵師の毛延寿に賄賂を贈らなかつたため、肖像画を醜く描かれ、不遇の身でいたが、偶然の機会から元帝に見出され、二人の間にロマンスが生まれる。

ところが、匈奴との和睦のため、王昭君は匈奴の番王に降嫁することになり、塞外の地へ旅立つ途中、国境を流れる黒竜川に身を投げる。宮廷で王昭君を偲ぶ元帝は、空を

飛ぶ雁の声に一人涙する。





史実の中の王昭君とは、どのような女性だったのか？

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬙南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨恚日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮顧景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前閼氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于閼氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立集

通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也比自謂若父子相傳則烏珠留死比當立爲單于何待至與而始傳其子也遂內懷猜懼庭會稀闊單于

疑之乃遣兩骨都侯監領比所部兵二十二年單于與死子左賢

王烏達鞮侯立爲單于復死弟左賢王蒲奴立爲單于比不得立

史実の中の王昭君

(王)昭君、字は嬙、南郡の人である。

初め、元帝の時、良家の子女として

選ばれて掖庭(後宮)に入った。

後漢書卷八十九南匈奴列傳

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰韋昭云蠡音如麗反有兩音呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬪南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨恚日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮願景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前閼氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于閼氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立集

通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也比自謂若父子相傳則烏珠留死比當立爲單于何待至輿而始傳其子也遂內懷猜懼庭會稀闊單于

疑之乃遣兩骨都侯監領比所部兵二十二年單于與死子左賢

王烏達提侯立爲單于復死弟左賢王蒲奴立爲單于比不得立

史實の中の王昭君

そのころ呼韓邪單于が来朝したの

で、帝は宮女五人を下賜することに

した。

昭君は後宮に入って数年が過ぎて

いたが、帝にお目通りする機会もな

く憂鬱な日々を送っていたため、掖

庭令に匈奴行きを願い出た。

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬪南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨恚日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮顧景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前閼氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于閼氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立集

通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也此自謂若父子相傳則烏珠留死比當立爲單于何待至輿而始傳其子也遂內懷猜懼庭會稀闊單于

呼韓邪單于の歡送の宴に、帝は五

人の宮女を呼んで單于に会わせた。

美しく、あでやかに着飾った王昭

君の姿が、漢の王宮を輝かせ、宮廷

内は騒然となった。

帝も大變驚き、宮中に留めたいと

思ったが、信義を失うわけにはいか

ず、匈奴に嫁がせた。

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰韋昭云蠡音如麗反有兩音呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬪南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨恚日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮願景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前閼氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于閼氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立集

通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也比自

謂史實之申則烏珠留其子也遂內懷猜懼庭會稀闊單于

疑之乃遣兩骨都侯監領比所部兵二十二年單于與死子左賢

王烏王昭君是二人の子を産んだが、不得呼

韓邪單于が亡くなると、前の閼氏①の

子が後を継ぎ、王昭君を妻に迎えよ

うとした②。

王昭君は漢に上書して帰国を願

い出たが、成帝は匈奴の習俗に従うよ

う命じ、新しい単于の閼氏となつた。

後漢書卷八十九南匈奴列傳

【解説】

①閼氏(えんし)・漢代の匈奴の単于の正室の称号

②匈奴社会では、女性は夫の死後、その兄弟や義理

の息子と結婚する Levirate 婚の習慣があつた



実際の王昭君は自らの意思で異国へ行き
逞しく生きた女性であった

NHK BS1 「韓国之母になった日本人—李方子」

まとめ

- 一．南北朝時代、経典が東アジアの共通語である漢語に翻訳されたことにより、仏教は東アジアの世界宗教となった。
- 二．仏教とともに西域から伝わった絵解き講釈は、「変文」と呼ばれる新たな庶民文学を誕生させた。
- 三．一九世紀の末、シルクロードの敦煌石窟の中から、変文を含む数万点におよぶ古文書が発見された。
- 四．「敦煌文書」と呼ばれるこれらの文書は、現在、大英図書館、パリ国立図書館などに所蔵されている。

参考文献

- 東山健吾他 『敦煌ものがたり』（新潮社一九八九年）
- 入矢義高編 『中国古典文学大系六〇 仏教文学集』（平凡社一九七五年、変文の翻訳九編を収録）
- 堀江恭子 『敦煌変文 「王昭君変文」 『明妃傳』の研究』（白帝社二〇〇八年）
- 王重民原編・黄永武新編 『敦煌古籍叙録新編』（新文学出版公司一九八六年第十七冊集部三に王昭君変文の原本写真を収録）
- 黄征・張涌泉 『敦煌変文校注』（中華書局一九九七年、諸家の校注を集大成したもの）